

関東アコーディオン演奏交流会

第32回
準備会3号

実行委員会ニュース



2020.9.18 発行
編集 広報部

ホームページ <http://www.kanto-acco.jp>

QRコード

アコーディオン愛好家のみなさんへ

関東アコーディオン演奏交流会30周年記念コンサート中止のお知らせ

関東アコーディオン演奏交流会は今年、3月に30周年記念コンサート及びレセプションの開催予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染拡大が勢いを増す中、全国規模の緊急宣言による外出自粛で日常生活が大きく制限され、併せて公共施設の休館等が続き、実行委員会が持てない状況から延期としてその後の様子を見てきました。

現状では、練習再開したとの声も聞こえてきています。また、ホール使用上の規制なども徐々に緩められる傾向にあるかのように感じますが、まだまだ油断はできません。

現時点においても、収束の見通しが立たないことを鑑みて、審査事務局との意見交換を行いました。その結果、双方とも30周年という形での開催はとても残念ですが諦めた方が良いとの意見となり、30周年コ年コンサート及びレセプションは中止という判断を致しました。

参加者のみなさん、出演者、関係スタッフの安全を第一に考慮した結果であることをご理解いただければと思います。また、開催を楽しみにしていただいた皆さまには深くおわび申し上げます。

一日も早く感染拡大が収束して、今まで通りの日常が戻ってくることを願ってやみません。そのときには元気な笑顔で集い、アコーディオンの音を響かせて閉塞感を打ち破りましょう。

関東アコーディオン演奏交流会
実行委員会
審査事務局



アコーディオンを弾いているちょっと生意気なうさぎは、うちの「ありちゃん」をモデルにしました。(後平)

目次

- 実行委員会の様子…2P
- サークル・教室の現状…3～4P
- JAA・インターネットわくわく広場のお知らせ…5～6P
- ぶらり訪問記「無音」…7～14P
- ぶらり訪問記「カフェ 183 チャリティライブ」…15～17P
- ホワイトボード…18P

実行委員会の様子(zoom 会議)

8月23日(日)午後1時～3時

前回(7月19日)は事務局会議でしたけれど、今回は実行委員会としました。
参加者(アイウエオ順)池田、岡田、小神、織田、乙津、佐々木、塚本、築山、橋本

■それぞれの近況報告・・・一部3ページに掲載。

■30周年記念コンサートの扱いについて

事務局長・・・2月に延期と決めてお知らせして以降、審査事務局との懇談が持てないまま今日に至っています。まず、30周年記念コンサートをどうするのか。実行委員会で“こう行きたい”と集約した意見を報告して審査事務局の意見を聞く。そんな方法でいいのかなと思っています。

◎来年に延期っていうならわかるけれど、延期のできる見通しが立っていないので、中止にして、新たに35周年に考えるとかした方がいいように思う。

◎年が明けると、9月に予定する関東アコのことも入ってくるしね。

◎仙台の佐藤さんのように“いつか、いつか”っていう想いでいまでも「スペイン」を練習している方もいるけれど、それは続けていただいて、新型コロナウイルスの収束の「し」の字も表れていない中で、年度内に企画するのは無理だと思う。記念誌という形がきちんと残って、みなさんの手元に届いているので、付け加えるならば、例えばスペインに向けた思い出を合奏の練習参加者に向けて伝わるものがあればいいね。

◎出来るのであればいいけれど、こういう状況では、近々できるっていう展望がないから、全く白紙にして完全に仕切り直しでいいんじゃないかと思う。

事務局長・・・意見をまとめると、30周年記念コンサートは、延期とお知らせしていたけれど、実行委員会では、「スペイン」もみんな練習して、張り切っていたので残念だけど、「中止」にしたいと審査事務局に伝えることとなります。(全員賛成) 審査事務局でも話し合っていて、双方が「中止」で合意できれば、きちっと告知することにします。

◎出場を要請したところもあるので、決まれば正式に「中止」を出さないよね。

事務局長・・・このあと、審査事務局に今日の報告をします。

◎ニュースは9月中旬に発行の予定なので、審査事務局の回答が間に合えば載せられる。間に合わない場合は、次回発行は11月を予定しているので、その後中止が決まる場合は、まずはホームページでお知らせすることになります。

■来年の関東について(事務局長)・・・次に、来年の関東はどんな感じですかね。

◎前回の会議では来年の1月まで待って判断しようということでした。

◎会場の利用条件、感染症対策などとも関わってくると思うけれど、舞台に乗る人数が10人程度なら問題ないだろうとおもうけれど、お客さんの出入り(人との距離を保つこと)の方が大きな問題になると思う。

◎単純に考えると、今年中止した「重奏・バンド/アンサンブル・合奏」部門の開催となるけれども、感染症対策の条件によっては「独奏」部門が向いているかもしれない。

事務局長・・・いずれにしても、会場の抽選会は、例年3月1日なので、それまでにそれぞれのサークルや教室でも話し合ってもらって。次回も意見交換していきましょう。



サークル・教室などの近況

音楽センター中部土曜教室

6月から練習再開しました。
お休みするメンバーも出ているけれども、新しく数人入ってきました。
関先生が一生懸命編曲していて元気に練習しています。(小神)

アンサンブル小川

練習は6月から再開しました。
コンサートに向けて練習を始めたものの、11月8日(日)予定していたコンサートは、話し合いの結果中止になりました。(織田)

横浜アコーディオン愛好会

6月から練習再開しました。
今まで20人程度収容の部屋で練習していたけれど、より広い50人程度の部屋に変更して距離を空けて、現在10人で練習しています。(個人レッスンは小さな部屋を使用)
8月30日に予定していた合宿は中止にしました。
例年10月に実施していた発表会も中止し、代わりに11月3日(祝)に内輪の内部発表会を行うことにしました。コロナについて、みんな心配しているけれども、元気で再開したところです。(塚本)

55アコーディオンサークル

7月一杯お休み。8月に入って遅れていた総会を開きました。
東京のど真ん中なので、夜のレッスンはしばらく中止します。
月1回、日曜日の午後だけを、9月13日(日)は関先生の合奏練習、10月は稲葉先生の個人レッスン。そんな風に再開することになりました。
練習が足りない分、55ニュースを発行することで繋がり励まされて続けることが出来るんだと思います。(佐々木)

千葉アコーディオンサークル

練習会場の穴川コミュニティセンターは会場を貸し出しておりますが、当サークルでは、毎回次週の練習について、実施するか休みにするかについて会員にネット投票を求め、その多数決で決めております。
月に3回練習日がありますが、8月は全て休みにになりました。9月も同じ方式で決めることとなります。
12月までに予定していた演奏会などの行事は、会員の多数意見に基づきすべて取りやめになっております。
シニア世代が多数を占める会員構成なので、このような慎重でみんなの意見を尊重する処置が必要だと思っております。(森川)

音楽センター南部教室

3月に予定していたスプリングコンサートが中止になり、4月末で退任された稲葉先生へのお礼が出来なかったため、10月28日(水)普段使っている練習会場で、お礼を兼ねて内部発表会を行う予定です。
現在、講師は森先生一人です。(乙津)

音楽センター中部金曜教室

5月に予定していた教室のコンサートは中止になったけれども、練習が6月から再開出来たので年内に仲間同士でも弾き会おうと話合い、10月11日(日)午後2時～、音楽センター地下ホールで内部発表会を行う予定です。当日は、合奏3曲、他独奏などですが、感染防止対策として、30分演奏したら10分間の換気タイムをとる方法で行います。お客さんもマスク着用していただき、20人限定なので家族と親しい友人ぐらいです。会場の音楽センターは、日ごろの練習会場です。(鈴木)

音楽センター三多摩教室

第10回 めくもりコンサート

2020年12月6日(日)午後2時～(予定)

会場：ルネ小平レセプションホール ※お客様は50人可能(定員の三分之一)と言われていますがこれからの状況により対応を変えるかもしれません。

詳しくは下記にお問い合わせください。

- ・三多摩教室 山口伊知郎 090-8745-1588
- ・音楽センター教育部 03-3208-8377

(山口)

音楽・ことば拾い

新聞などで見かけ、スクラップしてあった中から紹介。

■ジャズ・ピアニスト 山下洋輔 日本経済新聞2020年7月4日(土)夕刊コラム欄より一部転記。

◎「クラスター」とは

「ライブハウス」と「クラスター」と題して、クラスターについて「これも音楽用語にあります」と書かれています。

(前略) ある音程の間をびっしりと音を埋めて出すことで、その手法はピアノだと、左右の肘でその場所をぴったり押さえて音を出す、ということになります。つまり「肘打ち」「肘押し」ですね。このやり方は、実は私の音楽表現手法として、長年実践しているものなのです。「ヨースケのヒジウチ」などと言われることもあります。好き勝手にやる「フリースタイル」のジャズを始めてから、もう50年になります。その考えで即興演奏しますので、そういう音を出したいときには躊躇なく肘で鍵盤をたたいてしまうのですね。(後略)

※新型コロナウイルスに関するニュースの中で使われている「クラスター」という言葉は、集団とか、ブドウの房などと紹介されているけれども、たくさんの音を同時に押す奏法として音楽用語でも使われているんですね。

